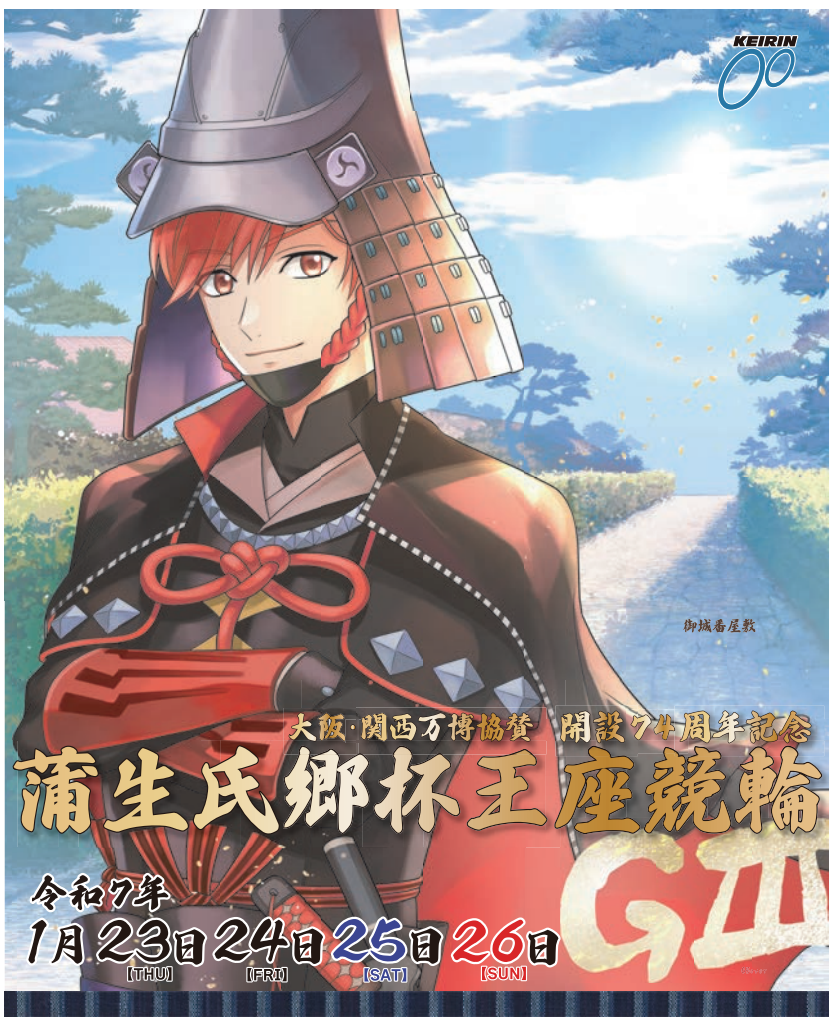




フ。ロスポーツ

松阪記念号外版

PROSPORTS KEIRIN WEEKLY MAGAZINE

GPチャンプ・古性優作が主役

大阪・関西万博協賛・松阪競輪場開設74周年記念「蒲生氏郷杯王座競輪」は、1月23日（土）26日（日）で開催される。今シリーズはグランプリ2024を制した古性優作が登場。圧倒的なファンの支持を集めるのは間違いない。だが、南関勢は郡司浩平、岩本俊介のSS班2名をはじめ深谷知広と充実のラインナップ。地元勢は浅井康太、皿屋豊らが一丸となって迎え撃つだけに、古性といえども樂觀はできない。優勝のゆくえは果たして？

昨年の前半戦は、タイトルをものにできずにいた古性優作ながら、後半戦に入ると急加速。オールスター、寛仁親王牌を連覇すると、グランプリ2024を手中に修めた。前半戦もVには手が届かなかったものの、ビッグレースで

決勝を外していないし、確定板入りが多かった。獲得賞金は約3億8300万円まで伸ばし、22年に脇本雄が初めて3億円を突破した記録を塗り替えた。一昨年はG1開催3Vの偉業を達成しているだけに、ここ数年の充実ぶりは素晴らしい。1月和歌山に続き記念連覇。そして、66周年に続き大会2V目ゲットは有望だ。

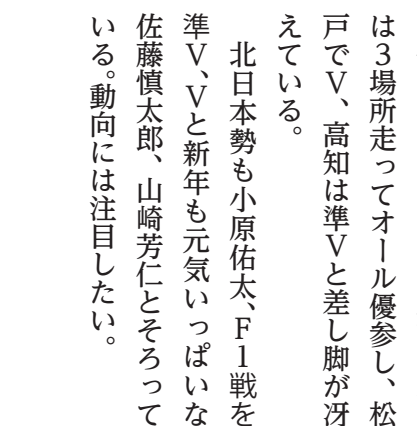


そろっている。軸になるのは郡司だ。昨年は全日本選抜を制し、早々とグランプリ出場権を獲得したが、その後はやや物足りなかった。ビッグレースで優勝は果たしていたものの、決勝は大きな数字ばかりで確定板入りはなかった。心機一転して臨んだ1月立川記念は①①②着。優勝は藤井侑の逃げに乗った山口拳に譲ったものの、連日の動きは申し分なかった。深谷との前後は流動的ながら、古性が相手でも好勝負に持ち込める状態にあるとみていいだろう。昨年に続き大会連覇も考えられる。その深谷はSS班を手放したものの、昨年はG3の2Vを含む42勝をあげていて、パワーあふれる自力攻撃で奮闘していた。競輪祭で落車したが、12月は松山記念①②②着、佐世保記念④①②③着と好成績で、体調に不安はない。先頭を任せれば強気に攻める。新SS班となった岩本は、今年はこの開催から始動。不惑を迎えたがスピードに陰りは見られない。南関勢がレースを支配すれば、連に浮上してきそう。

地元の大将格は浅井康太だ。この大会は62、71周年で優勝を手に入れている。最近の成績は12月当所①①②着、1月平①⑥②着、同月取手④①①着。取手の決勝は小松崎大、取島雄をまくりで一蹴した。皿屋豊も調子は上向き。12月は和歌山、静岡（Gシリーズ）と続けて連勝で決勝に進出。特に静岡では快速まくりを連発していて、準決では坂井洋、山田久らを撃破している。昨年11月の当所G3は準決で敗退しただけに、ここは優勝を目指して気合が入る。

ダークホースは攻め口多彩な山田庸平か。昨年は3月武雄G3のVをはじめF1戦で4Vを飾っている。12月広島記念in玉野では①①③②着と好走していて、やはり底力がある。ただ、その後は2場所続けて欠場している。小川勇介が山田とタッグを組む。12月は3場所走ってオール優勝し、松戸でV、高知は準Vと差し脚が冴えている。

北日本勢も小原佑太、F1戦を準V、Vと新年も元気いっぱいな佐藤慎太郎、山崎芳仁とそろっている。動向には注目したい。



万博協賛蒲生氏郷杯王座競輪 出場予定選手

※2025年01月16日現在のデータです。

級班	氏 名	登録地	期別	競走得点	級班	氏 名	登録地	期別	競走得点	級班	氏 名	登録地	期別	競走得点	級班	氏 名	登録地	期別	競走得点	級班	氏 名	登録地	期別	競走得点
SS	岩本俊介	千葉	94 期	112.18	S1	恩田淳平	群馬	100 期	107.03	S2	谷津田将吾	福島	83 期	88.94	S2	黒田淳	岡山	97 期	101.16	S2	古賀勝大	和歌山	115 期	97.48
SS	郡司浩平	神奈川	99 期	119.70	S1	谷口遼平	三重	103 期	106.95	S2	大野悟郎	大分	83 期	97.50	S2	西岡拓朗	広島	97 期	97.40	S2	張野幸聖	和歌山	115 期	95.44
SS	古性優作	大阪	100 期	121.00	S1	堀内俊介	神奈川	107 期	101.83	S2	藤原憲征	新潟	85 期	99.26	S2	森山智徳	熊本	98 期	93.08	S2	佐々木和紀	神奈川	117 期	93.05
S1	佐藤慎太郎	福島	78 期	112.73	S1	大石剣士	静岡	109 期	104.00	S2	木村直隆	兵庫	86 期	96.58	S2	石川裕二	茨城	99 期	102.23	S2	下井竜	三重	117 期	94.89
S1	渡部哲男	愛媛	84 期	103.63	S1	皿屋豊	三重	111 期	106.77	S2	藤原浩	高知	87 期	94.33	S2	藤井栄二	兵庫	99 期	101.16	S2	村田瑞季	京都	117 期	96.17
S1	湊聖二	徳島	86 期	107.58	S1	福永大智	大阪	113 期	109.53	S2	佐藤朋也	秋田	89 期	90.93	S2	木村弘	青森	100 期	104.67	S2	溝口葵	三重	117 期	93.62
S1	岩津裕介	岡山	87 期	110.21	S1	小原佑太	青森	115 期	109.00	S2	松永将	茨城	89 期	99.11	S2	坂本周輝	青森	100 期	98.83	S2	青柳靖起	佐賀	117 期	103.41
S1	山崎芳仁	福島	88 期	109.08	S1	晝田宗一郎	岡山	115 期	103.29	S2	吉田裕全	埼玉	90 期	93.13	S2	伊東翔貴	福島	100 期	98.33	S2	桑名僚也	埼玉	119 期	98.45
S1	河野通孝	茨城	88 期	102.83	S1	仲野結音	大阪	117 期	93.41	S2	原田泰志	新潟	91 期	93.03	S2	笠松将太	埼玉	100 期	96.72	S2	鈴木浩太	千葉	119 期	99.26
S1	五日市誠	青森	89 期	104.52	S1	阿部将大	大分	117 期	108.50	S2	内田英介	東京	91 期	91.15	S2	金子幸央	栃木	101 期	101.33	S2	山本浩成	福岡	119 期	93.16
S1	朝倉佳弘	東京	90 期	101.43	S1	兼本将太	熊本	117 期	98.77	S2	柴崎俊光	三重	91 期	102.32	S2	山本直	岡山	101 期	99.89	S2	安彦統賀	埼玉	121 期	96.43
S1	浅井康太	三重	90 期	113.64	S1	松岡辰泰	熊本	117 期	107.52	S2	小堺浩二	石川	91 期	98.86	S2	佐藤健太	福岡	101 期	93.72	S2	加藤将武	埼玉	121 期	95.25
S1	小川勇介	福岡	90 期	109.86	S1	新村穰	神奈川	119 期	104.48	S2	安部貴之	宮城	92 期	102.92	S2	太田竜馬	徳島	109 期	106.67	S2	滝本幸正	新潟	121 期	98.83
S1	山田久徳	京都	93 期	109.31	S1	志田龍星	岐阜	119 期	106.57	S2	森川大輔	岐阜	92 期	101.07	S2	落澤鴻太郎	群馬	111 期	99.87	S2	真鍋顕汰	三重	121 期	96.00
S1	山田庸平	佐賀	94 期	111.64	S2	飯田辰哉	千葉	72 期	89.64	S2	戸田洋平	岡山	92 期	98.95	S2	川越勇星	神奈川	111 期	104.00	S2	村田祐樹	富山	121 期	105.88
S1	芦澤辰弘	茨城	95 期	106.87	S2	江守昇	千葉	73 期	99.76	S2	星野辰也	栃木	95 期	87.54	S2	今野大輔	岡山	111 期	96.76	S2	塩崎隼秀	愛媛	121 期	94.25
S1	近藤保	千葉	95 期	106.61	S2	松田治之	大阪	73 期	101.84	S2	二藤元太	静岡	95 期	98.55	S2	島村匠	福岡	111 期	89.85	S2	甲斐俊祐	大分	121 期	90.67
S1	長島大介	栃木	96 期	110.35	S2	望月永悟	静岡	77 期	99.55	S2	高間悠平	福井	95 期	93.70	S2	佐々木堅次	福島	113 期	99.95	S2	斉藤樂	宮城	123 期	92.33
S1	深谷知広	静岡	96 期	116.04	S2	佐々木則幸	高知	79 期	99.48	S2	磯田旭	栃木	96 期	104.60	S2	久樹克門	徳島	113 期	94.78	S2	棚瀬義大	岐阜	123 期	97.16
S1	西村光太	三重	96 期	106.79	S2	牧剛央	大分	80 期	94.15	S2	山形一気	徳島	96 期	103.63	S2	山本修平	東京	115 期	0.00	S2	青木瑞樹	岡山	123 期	93.04
S1	久木原洋	埼玉	97 期	99.03	S2	前反祐一郎	広島	81 期	91.55	S2	松尾透	福岡	96 期	99.43	S2	原田亮太	千葉	115 期	96.48					
S1	阿部力也	宮城	100 期	109.33	S2	青井賢治	徳島	81 期	97.30	S2	中村健志	熊本	96 期	96.37	S2	脇本勇希	福井	115 期	101.89					

村田 祐樹 (富山/121期)

ヤンググランプリ2024に参戦した有望株。直近4カ月の連がらみの決まり手は、約9割が逃げてのもので、徹底先行で勝負している。スピードには非凡なものがあり、中部勢の先導役として期待は大きい。



太田 竜馬 (徳島/109期)

F1戦ではほとんど決勝に乗っているし、12月広島記念 in 玉野は1④⑧①着と2勝をあげた。調子を落としていたときもあったが、徐々に本来のスピードが戻ってきた感がある。一発には注意したい。



近藤 保 (千葉/95期)

ここのところ伸びがいい。12 月小松島1②
①着など、昨年終盤の5場所の連対率は7割
 に迫る勢いだった。10 月川崎G3、11 月四日
 市記念ではいずれも準決に乗っているので、一
 次予選はもちろん、二次予選でも侮れない。



地元地区推奨選手

俺の出番だ!!



西村 光太

(三重/96期)

当所は昨年の 11 月G3に参加し、2②③⑦着と決勝に乗っている。その後は目立つヒットはないものの、5場所で確定板入りが10回とまずまずの成績だ。上位進出の期待がかかる。

溝口 葵

(三重/117期)

今期は初のS級戦。初戦の1月前橋では1⑥②着と2連対を果たしていて、予選は逃げ切る好スタートを決めている。初のG3参戦が地元なら燃える材料には事欠かない。

[illegible]